Internal Audit & Financial Advisory

内部監査におけるAI戦略―変革へのロードマップ

protiviti®
Global Business Consulting

人工知能（AI）は、内部監査の在り方そのものを変えつつあります。手作業中心の監査業務を最適化し、分析を高速化するとともに、従来の手法では得られなかった洞察の可視化を可能にしています。先進的な企業ではAIを活用し、業務の精度の向上、カバレッジの拡大、提供価値の最大化を実現しつつ、監査人の時間を定型業務から、より高付加価値で判断を要する業務へとシフトさせています。

現在起きている変化

2025年プロティビティ実施「Innovating Audit」調査結果より

- 監査リーダーの68%が、未来志向の戦略実行に必要な人材・体制面に課題があると感じている。
- 内部監査人材の54%が、監査業務で既にAIを利用しており、AIの効果的な活用への期待が高まっている。

AIで変わる内部監査の価値創出 ⟶ AI戦略計画の策定

AIを内部監査業務に取り入れることで、効率性、正確性、リスク管理能力が高まり、監査品質全体の大幅な向上が期待されます。AI技術の進化に伴い、これらの効果はさらに広がり、内部監査機能に一層の価値をもたらします。

生産性・効率性の向上

定型業務を自動化し、データ処理を高速化することで、監査人が付加価値の高い業務に注力でき、コスト削減にもつながります。

監査の信頼性と一貫性の向上

監査証拠を迅速に抽出・集約・要約することで、監査結果の一貫性と信頼性を高めます。

リスク検知力の高度化

早期警戒の示唆や異常検知により、新たなリスクを的確に把握します。

可視化による洞察の強化

複雑なデータを分かりやすいレポートに変換し、迅速な理解と意思決定を支援します。

コンプライアンス対応の効率化

規制動向のキャッチアップや必要資料の収集を、より円滑に行うことが可能になります。

内部監査におけるAI戦略計画は、AIを「どこで」、「どのように」活用すべきかの体系的な意思決定を可能にするとともに、監査目的、業務モデル、ガバナンスの期待と整合した持続的なAI導入のためのロードマップを提供します。

特定（Identify）

- 内部監査におけるAI導入の戦略目的（例：品質、拡張性、一貫性、監査人の業務支援）を明確化
- AIが価値をもたらす監査活動、プロセスおよび監査ライフサイクルの領域を特定

優先付け（Prioritize）

- 戦略的価値、組織の成熟度、複雑性、リスクの観点から重点領域を評価
- データの可用性、システム環境、業務変更の影響を踏まえ、短期施策と中長期施策を整理・見極め

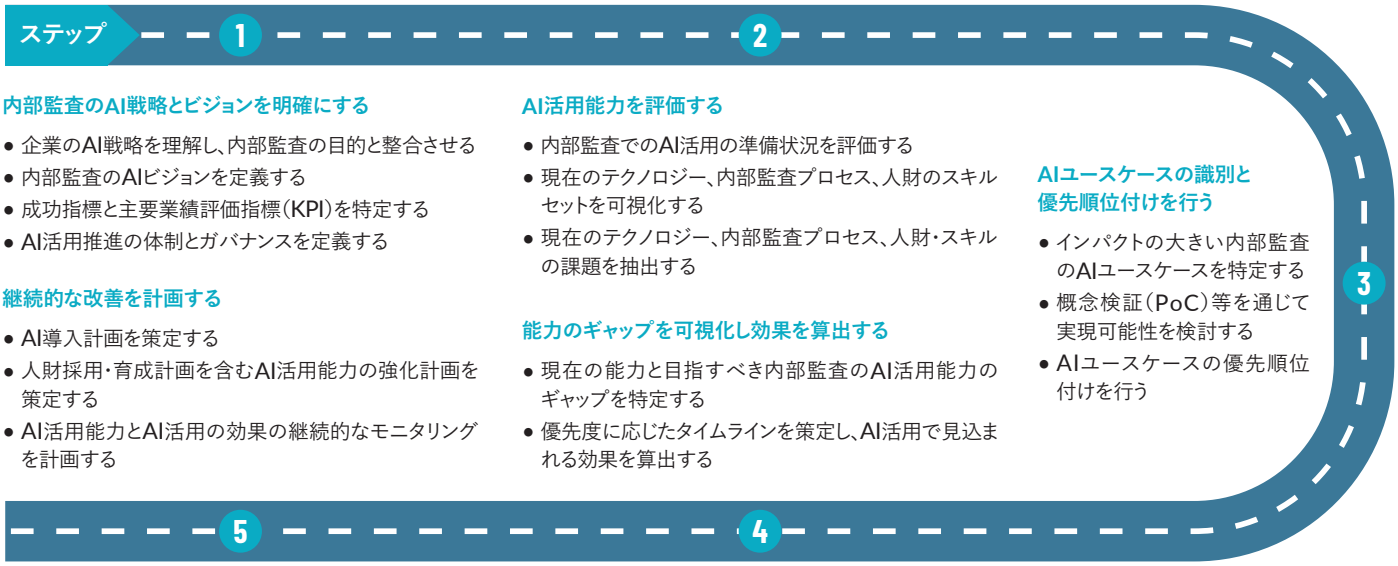
設計（Design）

- 内部監査の将来像におけるAI活用コンセプトおよび業務への適用を整理
- AI戦略、内部監査方法論、システム基盤、ガバナンス要件に整合した、短期・中長期の段階的なAI導入ロードマップを策定

プロティビティは、AI戦略および内部監査のメソドロジーと整合し、各組織の状況や成熟度に応じたAI導入ロードマップを策定します。監査ライフサイクル全体を通じて高付加価値なAI活用機会を特定・検証・展開するためのステップを明確に示し、持続的なAI導入の実現を支援します。

ロードマップ策定のアプローチ

AI戦略、内部監査方法論、システム基盤、ガバナンス要件に整合したAI導入ロードマップを策定し、
付加価値が見込める機会の特定、それらの実務的な検証、そして統制の取れた責任ある形での導入拡大を推進します。



ステップ1

内部監査のAI戦略とビジョンを明確にする

- 企業のAI戦略を理解し、内部監査の目的と整合させる
- 内部監査のAIビジョンを定義する
- 成功指標と主要業績評価指標（KPI）を特定する
- AI活用推進の体制とガバナンスを定義する

継続的な改善を計画する

- AI導入計画を策定する
- 人財採用・育成計画を含むAI活用能力の強化計画を策定する
- AI活用能力とAI活用の効果の継続的なモニタリングを計画する

ステップ2

AI活用能力を評価する

- 内部監査でのAI活用の準備状況を評価する
- 現在のテクノロジー、内部監査プロセス、人財のスキルセットを可視化する
- 現在のテクノロジー、内部監査プロセス、人財・スキルの課題を抽出する

能力のギャップを可視化し効果を算出する

- 現在の能力と目指すべき内部監査のAI活用能力のギャップを特定する
- 優先度に応じたタイムラインを策定し、AI活用で見込まれる効果を算出する

ステップ3

AIユースケースの識別と優先順位付けを行う

- インパクトの大きい内部監査のAIユースケースを特定する
- 概念検証（PoC）等を通じて実現可能性を検討する
- AIユースケースの優先順位付けを行う

マイルストーン

ロードマップ策定の過程において、以下の体系的なマイルストーンを達成し、成果物を取りまとめます。

STEP 1~2

- AI戦略フレームワーク
- AIガバナンスフレームワーク
- KPIおよび成功要因
- AI能力の現状整理表

STEP 3

- 高付加価値のAIユースケース一覧
- 概念検証（PoC）結果
- ユースケースの優先順位付け表

STEP 4~5

- AI能力のギャップ分析結果
- AI導入計画（短期および中長期）
- AI能力の強化計画（人財採用・育成計画を含む）
- 継続的モニタリング計画

プロティビティの支援内容

プロティビティは、戦略的なパートナーとして内部監査機能のAIトランスフォーメーションを総合的に支援します。AI戦略の策定から、AIを活用した内部監査を実現するための実践的なトレーニング、プロンプトやAIエージェントの構築、ポリシー・プロセス・データの整備、AIガバナンスの構築やAI監査に至るまで、内部監査の方法論と整合した責任ある、安全かつ拡張可能な形での成果の実現を支援します。

支援領域

- 内部監査におけるAI戦略の策定
- AI導入に向けたロードマップ策定
- 内部監査におけるAI活用実践トレーニング
- AIを活用した内部監査のアウトソーシング・コソーシング
- AIを活用した内部監査プロセスの最適化
- AI活用を前提とした監査ツールおよびデータの最適化
- AIガバナンスおよびリスク管理体制の構築
- AI監査

プロティビティについて

プロティビティは、クライアントがビジネスの変革や防護、また計画された事象や予期せぬ事象に対応できるように支援するグローバルコンサルティングファームです。25か国、90を超える拠点で、プロティビティとそのメンバーファームはクライアントに、テクノロジー、AI、データ、オペレーション、ファイナンス、法務、コンプライアンス、人材・組織、マーケティング、デジタル、リスク、内部監査の分野において、高い専門性とお客様ごとに的確なソリューションを提供しており、組織の変革の加速、リスクへの対応、最も重要な価値の保護を実現します。
プロティビティは、2015年以来、米国フォーチューン誌の働きがいのある会社ベスト100に継続して選出され、Fortune100の80%以上、Fortune500の約80%の企業にサービスを提供しています。また、成長著しい中小企業や、上場を目指している企業、政府機関等も支援しています。プロティビティは、Robert Half Inc.（NYSE:RHI）の100%子会社です。

プロティビティLLC　protiviti.jp
東京都千代田区大手町 2-6-4 TOKYO TORCH 常盤橋タワー24F
大阪府大阪市北区梅田 3-2-123 イノゲート大阪9F

Protiviti、Protivitiロゴは、Protiviti Inc. の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。その他の記載されている会社名・製品名は各社の登録商標です。　PJ2606

protiviti®